

図書館だより

平成 31 年 2 月 25 日 発行

No.Ⅲ－第 8 号

編集・発行

武蔵野市立図書館

TEL0422-51-5145(中央)

図書館ホームページで蔵書検索、貸出・予約状況確認、延長手続き、読書記録、お気に入り資料の登録ができます！

URL <http://www.library.musashino.tokyo.jp/>

モバイル版 URL <http://www.library.musashino.tokyo.jp/m/>

本好き同士の熱い戦い！ビブリオバトル

「ビブリオバトル」という言葉をご存知ですか？

英語で「書物」をあらわす「ビブリオ(biblio)」と、「戦う」＝「バトル(battle)」から成る造語です。5分間という制限時間の中で、自分が読んで面白いと思った本の魅力や楽しみ方・味わい方を自分なりの切り口で語り、読みたいと思わせるような発表をすることで、勝者を決める書評合戦です。

ビブリオバトルのやり方



ビブリオバトル公式 WEB サイトより：<http://www.bibliobattle.jp/>

<公式ルール>

- ① 発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員1票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

5分間の発表時間は、概要や著者紹介など表面的な内容紹介だけでは持て余してしまいます。発表時間の配分や言葉のチョイス・切り口から発表者の人となりが見えてくるところがビブリオバトルの醍醐味です。また3分間のディスカッションでは、発表者と参加者、時には観戦者も交えて会話がやり取りされ、参加者全員が参加できる双方向でのコミュニケーションの場が実現します。

ビブリオバトルの成立ち

ビブリオバトルは、2007年に京都大学大学院情報学研究科から生まれました。現・ビブリオバトル普及委員会の代表でもある谷口忠大氏が、研究員時代に、専攻テーマによってメンバーの前提知識に差がある中で、コミュニケーションを深める方法として考案したのが「ビブリオバトル」でした。2010年には書店で開催され、また、同年に東京都が主導する「『言葉の力』再生プロジェクト」のコンテンツの一つに選ばれたことが大きな転機となり、現在では、学校・公共施設・商業施設など様々な場所でビブリオバトルがさかんに行われるようになりました。

武蔵野プレイスでの取組み

武蔵野プレイスでも、2015年より年に一回、ビブリオバトルを開催しています。初心者向けに行っている講座形式と、観戦者を入れたオープンスタイルで行うゲーム形式の2種類を実施してきました。オープンスタイルで行うゲームは毎年2ゲーム実施しており、一般的なルールのゲームと変則的なルールのゲームを行っています。2016・2018年に実施した「探検編」は、当日発表されたキーワードを基に、図書館の中から自身が読んだことのある本を探して紹介するという、これまでの読書量が試される変則ルールで行われるビブリオバトルです。図書館で実施する特性を活かしたイベントとなっています。

武蔵野プレイスでの歴代のチャンプ本

2016年	実践編	<small>こめかみ</small> 『顛顛草紙 串刺し』平山夢明 (KADOKAWA)
	探検編	『はてしない物語』ミヒヤエル・エンデ (岩波書店)
2017年	実践編 (フリー)	『星への旅』吉村昭 (新潮社)
	実践編 (テーマ)	『けんせつのでんせつ』江口知秀 (東日本建設業保証)
2018年	ノーマル編	『こっちへお入り』平安寿子 (祥伝社)
	探検編	『蔵書まるごと消失事件』イアン・サンソム (東京創元社)

参考文献

タイトル	著者名	出版社
ビブリオバトル入門 ～本を通して人を知る・人を通して本を知る	吉野英知／ほか 監修 ビブリオバトル普及委員会／編著	情報科学技術協会
ビブリオバトルハンドブック	ビブリオバトル普及委員会／編著	子どもの未来社

📢 図書館サービスいろいろ NEWS

図書館では、おはなし会や映画会など色々な行事に参加することができます。また、調査研究用のインターネット検索パソコンやAV視聴ブース(中央)を利用することもできます。

NEWS

1

2月24日(日)、中央図書館において、子ども図書館文芸賞の表彰式が行われました。2月25日(月)より、受賞作品を掲載した作品集を各図書館で配布します。詳細は図書館ホームページをご覧ください。